



埋文さかど年報

平成24年度

1

雷電塚古墳群1区

らいでんづかこふんぐん

調査区

坂戸市大字小沼字田島

調査期間

平成24年4月12日～5月18日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

方形周溝墓1基（古墳時代前期）

古墳1基（古墳時代後期）

溝1条（時期不明）



1. 雷電塚古墳群1区

雷電塚古墳群は、坂戸市の北東部に位置する古墳群で、前方後円墳の雷電塚1号墳は埼玉県指定史跡に登録されています。

これまでの調査によって、13基の古墳が確認され、人物埴輪や馬形埴輪、円筒埴輪などが多く出土しました。

今回の調査区は、狭い面積でしたが古墳時代前期の方形周溝墓1基、溝1条のほか

に新たに古墳1基（雷電塚14号墳）が発見されました。雷電塚14号墳は、墳丘がすでに消滅していましたが、幅約6mの周溝が残っており、土師器坏や朝顔形埴輪、円筒埴輪などが出土しました。

周溝の形状から、帆立貝式古墳の可能性が高く、坂戸市内では初めての発見となりました。



古墳時代前期の方形周溝墓



雷電塚14号墳全景



雷電塚14号墳遺物出土状況



作業風景

2

宮裏遺跡
29区

調査区

坂戸市浅羽野

調査期間

平成24年4月9日～5月30日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

住居跡—5軒（古墳時代前期）

方形周溝墓—2基（古墳時代前期）

竪穴状遺構—1軒（中世）

井戸—2基（中世以降） 土坑—42基（中世以降）

溝—1条（中世以降） ビット群—4基（時期不明）

宮裏遺跡は、高麗川を臨む台地縁辺に位置し、古墳時代前期の遺構が多く確認されています。

今回の調査でも、古墳時代前期の住居跡や墓である方形周溝墓が発見されました。住居跡からは、土師器の台付甕や埴などが出土しました。また、直径約4mの大型の井戸も発見されました。



2. 宮裏遺跡29区



住居跡内から出土した土師器

3

新山古墳群
2区

調査区

坂戸市清水町

調査期間

平成24年6月7日～7月26日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

住居跡—6軒（古墳時代前期）



3. 新山古墳群2区

新山古墳群は、飯盛川を臨む台地縁辺に広がる古墳群です。

今回の調査区は、遺跡の北西側に位置し発掘調査によって、初めて古墳時代前期の住居跡が発見されました。

住居跡には、煮炊きをするための炉が設けられており、土師器の台付甕などが出土しました。



住居跡内から出土した土師器

調査区

坂戸市大字塚越字馬場

調査期間

平成24年1月30日～5月26日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

住居跡—3軒（平安時代）

掘立柱建物跡—2棟（奈良・平安時代）

道路遺構—1条（奈良・平安時代）

井戸—1基（奈良・平安時代） 土坑—8基（奈良・平安時代以降）

溝—3条（時期不明） ビット—4基（時期不明）



4. 馬場遺跡3区

馬場遺跡は、坂戸市北東部に位置し、北面には谷治川が流れています。

発掘調査は平成23年度から実施し、東山道武蔵路と考えられる道路遺構が発見されました。平成24年度の調査区は、東山道武蔵路の東側に位置します。

調査区からは、新たに道路遺構が1条検出されたほか、奈良・平安時代の住居跡や

掘立柱建物跡、井戸、土坑などが発見されました。

道路遺構は、道幅約4mで南東方向に走行し、東山道武蔵路から枝分かれする道の可能性があります。

住居跡からは、須恵器や土師器のほか、糸をつむぐ道具である紡錘車などが出土しました。



調査区全景



平安時代の住居跡



井戸から出土した鉄製品

5

景台遺跡7区

調査区

坂戸市大字紺屋字景台

調査期間

平成24年7月2日～8月10日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

住居跡-2軒（縄文時代中期）
 集石土坑-5基（縄文時代中期）
 炉 穴-2軒（縄文時代中期）
 方形周溝墓-2基（古墳時代前期）
 土 坑-3基（時期不明） 溝-2条（中世以降）

景台遺跡は、大谷川を臨む台地縁辺に立地し、対岸には上谷遺跡が位置します。

これまでの調査では、縄文時代中期の住居跡が数多く発見されており、拠点的な集落であったと考えられます。

今回の調査でも縄文時代中期の住居跡が発見されたほか、古墳時代前期の方形周溝墓も見つかりました。



5. 景台遺跡7区



縄文時代中期の住居跡

6

景台遺跡8区

調査区

坂戸市大字紺屋字景台

調査期間

平成24年11月7日～11月30日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

住居跡-1軒（縄文時代中期）
 土 坑-20基（時期不明）
 溝 -2条（中世以降）

今回の調査区は、景台遺跡7区の北隣に位置し、縄文時代中期の住居跡などが発見されました。

住居跡は、平面が円形を呈し周囲には柱を据えた柱穴、中央には煮炊きをするための炉が設けられていました。

住居跡からは、数多くの縄文土器が出土しました。



6. 景台遺跡8区



縄文時代中期の住居跡

調査区

坂戸市大字善能寺字塚原

調査期間

平成24年5月24日～8月21日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

古墳—2基（古墳時代後期～終末期）

住居跡—7軒（古墳時代前期・終末期）

掘立柱建物跡—2棟（時期不明）

井戸—1期（古墳時代終末期か）

土坑—11基（時期不明）

ヒット—2基（時期不明）



7. 塚原古墳群2区

塚原古墳群は、坂戸市の西北部、毛呂山町との境に位置する古墳群で、これまでに14基の古墳が確認されています。

今回の調査区は、塚原3号墳（前方後円墳）と塚原9号墳（円墳）の東側に位置し、両古墳の周溝や古墳時代の住居跡などが発見されました。

塚原3・9号墳とも、周溝からは埴輪が

出土しないのが特徴で、塚原9号墳は7世紀代の古墳と考えられます。

古墳時代終末期の住居跡からは、荒川以北の地域に分布する、有段口縁埴（ゆうだんぐちのり）と呼ばれる土師器埴が多く出土したのが特徴です。

今回の調査で、古墳に隣接してほぼ同時期の住居跡が発見されたことが貴重な調査成果となりました。



調査区全景



古墳時代終末期の住居跡



住居跡から出土した大量の土師器

8

花影遺跡22区

調査区

坂戸市中富町

調査期間

平成24年5月17日～8月23日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

住居跡—2軒（縄文時代中期）
 方形周溝墓—1基（古墳時代前期）
 土 坑—1基（時期不明）



8. 花影遺跡22区

花影遺跡は、高麗川を臨む台地縁辺に位置し、縄文時代中期や古墳時代、奈良・平安時代の遺構が発見されています。

調査区は遺跡の西側に位置し、直径約5mの縄文時代中期の住居跡や、古墳時代前期の方形周溝墓などが発見されました。住居跡からは、大量の縄文土器が出土し、完全形の深鉢や浅鉢も出土しました。



縄文土器の出土状況

9

花影遺跡23区

調査区

坂戸市中富町

調査期間

平成24年6月12日～8月23日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

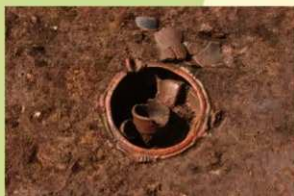
住居跡—2軒（縄文時代中期）
 方形周溝墓—3基（古墳時代前期）



9. 花影遺跡23区

今回の調査区は、花影遺跡22区の東隣に位置します。発見された遺構は、花影遺跡22区とあわせると、縄文時代中期の住居跡4軒、古墳時代前期の方形周溝墓4基となります。

遺構は密集しており、縄文時代中期は生活の場として、古墳時代前期は墓域として利用されていたことが分かりました。



住居跡内から出土した縄文土器

調査区

坂戸市大字塚越字馬場

調査期間

平成24年9月10日～10月12日(4区)

平成24年10月1日～10月19日(5区)

平成25年1月21日～2月19日(6区)

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

住居跡—9軒(古墳時代後期)

井 戸—1基(時期不明)

土 坑—3基(古墳時代後期・時期不明)

溝 —1条(時期不明)



10. 道場遺跡4・5・6区

道場遺跡は、坂戸市北東部に位置し、北側には谷治川が流れています。

これまでの発掘調査では、古墳時代前期や後期の住居跡のほか、7世紀頃と考えられる古墳が発見されています。

道場遺跡4・5・6区の調査区は、いずれも隣接しており、すべての調査区から古墳時代後期の住居跡が確認されました。

住居跡は、平面が正方形で一辺約4～5mを測り、煮炊きをするためのカマドや貯蔵穴などが設けられています。

カマドの周囲や床面、貯蔵穴からは、完全な形の土師器坏や甕が出土しました。坏は、内外面とも赤く塗られているのが特徴です。



カマドから出土した土師器



住居跡の床面から出土した土師器



貯蔵穴から出土した土師器



作業風景

調査区

坂戸市清水町

調査期間

平成24年8月20日～11月27日

調査原因

サービス付高齢者向け専用住宅建設

確認された遺構と年代

古墳-2基（古墳時代終末期）

住居跡-1軒（古墳時代前期）

溝-1条（中世以降）

炉 穴-1基（縄文時代早期か）



11. 新山古墳群3区

新山古墳群は、坂戸市のほぼ中央、西側に飯盛川を臨む台地縁辺に位置します。

これまでに11基の古墳が確認されていますが、昭和30～40年代にかけての大規模な宅地造成工事によって、その多くが消滅してしまいました。

今回の調査区の中には、約1.2mの墳丘が残る新山9号墳が位置しています。発掘調査の結果、新山9号墳は直径約24mの円

墳であることが判明しました。遺体を埋葬した横穴式石室は、軟質の凝灰岩質砂岩を長方形に加工して積み上げています。奥壁や羨門には、緑泥片岩を使用しているのが特徴です。石室の形態や出土した土師器や須恵器の特徴から、7世紀中頃に築造されたと考えられます。

このほか、新山9号墳の東側から新たに古墳が1基（新山12号墳）発見されました。



新山9号墳

新山12号墳

新山9・12号墳



新山9号墳横穴式石室



奥壁に使用された緑泥片岩

12

若葉台遺跡6区-5

調査区

坂戸市千代田

調査期間

平成24年11月20日～平成25年1月8日

調査原因

クラブハウス増築工事

確認された遺構と年代

掘立柱建物跡—多数（奈良・平安時代）
土坑—1基（時期不明）
ピット群—（奈良・平安時代）



12. 若葉台遺跡6区-5

若葉台遺跡は、東武東上線若葉駅の東側に位置します。遺跡は、坂戸市と鶴ヶ島市にかけて広がっており、奈良・平安時代の大規模な集落が確認されています。

今回の調査区は、女子栄養大学内に位置し、調査区全体から掘立柱建物跡と考えられる柱穴群が確認されましたが、調査範囲が狭いため正確な建物の件数は不明です。



柱穴の土層断面

13

西窪遺跡6区

調査区

坂戸市大字中小坂宇西窪

調査期間

平成25年1月7日～1月10日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

遺物包含層—（縄文時代後期）



13. 西窪遺跡6区

西窪遺跡は、坂戸市南東部に位置し、北側には大谷川が流れています。

今回の調査区は遺跡の南西側、標高のやや低い場所に位置します。調査区の全体から、縄文時代後期の遺物包含層が確認されました。

包含層からは、多数の縄文土器や石器などが出土しました。



遺物包含層から出土した縄文土器

14

宮裏遺跡30区

調査区	坂戸市浅羽野
調査期間	平成24年11月27日～平成25年1月11日
調査原因	宅地造成工事
確認された遺構と年代	方形周溝墓—2基（古墳時代前期） 土 坑—10基（時期不明） 溝 —3条（時期不明） ピット—9基（時期不明）



14. 宮裏遺跡30区

宮裏遺跡は、高麗川を臨む台地縁辺に位置し、古墳時代前期の遺構が多く確認されています。

今回の調査区は、遺跡の西端に位置しており、発掘調査によって古墳時代前期の方形周溝墓などが発見されました。過去の発掘調査も加えると、宮裏遺跡は大規模な墓域であった可能性が考えられます。



古墳時代前期の方形周溝墓

15

池ノ台遺跡5区

調査区	坂戸市関閤
調査期間	平成25年1月15日～2月5日
調査原因	土地区画整理事業
確認された遺構と年代	住居跡—1軒（奈良時代） 土 坑—2基（時期不明） ピット—6基（時期不明）



15. 池ノ台遺跡5区

池ノ台遺跡は、若葉駅の西側、平坦な台地上に位置しており、現在は土地区画整理事業が進行しています。

この遺跡では、奈良時代の住居跡などが発見されていますが、遺構の密度が低いのが特徴です。

今回の調査でも、奈良時代の住居跡は1軒のみでした。



奈良時代の住居跡